
補聴器Q&A

博士補聴器

補聴器とは何ですか？

文字通り、きこえを補う機器です。言葉や音を聞くために音を大きくして補います。入れ歯をすることや、眼鏡をかけることと同様に、補聴器をつけることで、聴力の問題を改善します。

補聴器はどのような形のものがありますか？

補聴器は様々な形、種類があります。比較的大きく、現在では数が少なくなってきたポケット型や骨導型（眼鏡型他）、現在主流の耳あな型と、耳かけ型があります。耳あな型と耳かけ型についての詳細は『補聴器について知りましょう』をご覧ください。

補聴器はうるさいですか？

現在のデジタル補聴器は、周囲の雑音や騒音を制御する効果が高いという結果が出ています。また、それぞれの環境に合わせて音が切り替わるように設定する事が可能です。（静かな環境 大勢で話している環境 など）設定の切り替え方法は、ボタンやリモコンを使い手動で切り替える事はもちろんのこと、自動的に切り替わるようにすることも可能です。それぞれの環境に合わせることで、快適にはっきりと聞くことが出来ます。

補聴器からピーピーする音を聞いたことがあります。そのような音は出るのですか？（ハウリング音、フィードバック音）

現在のデジタル補聴器はこのピーピーする音（ハウリング音）を抑える機能があり、効果が高いとされています。ハウリング音はマイクとスピーカー（補聴器ではレシーバーといいます）が近づけば近づくほど起きやすく、補聴器の音が大きければ大きいほど起きやすくなります。したがって補聴器の音を大きくする必要がある重度の難聴の場合に起こりやすくなります。耳かけ型でも、しっかり耳型を取り耳の形に合わせたイアーモールドを使用することでハウリングを起きにくくする事ができます。さらに、調整の際にはこの音が出にくいようにしっかりと調整致します。

補聴器の電池は交換が必要ですか？

補聴器の電池は交換が必要です。補聴器の形式や、電池の型番と使用時間の違いで電池の持ち時間は異なります。おおよそ毎日10～12時間を使って、1粒の電池は1～2週間から1ヶ月ほど持ちます。

補聴器の値段はいくらですか？

最新のデジタル補聴器は調整できる項目が多く機能も豊富です。また、デジタル補聴器は音を周波数分解し、その帯域（チャンネルといいます）ごとに音の処理をします。機能や調整できる項目と、このチャンネルが多いほど高価になります。ポケット型などの3万円台のものから、耳かけ／耳あな型の最高級機種であれば50万円のものまであり価格に幅がありますが、下記3点を考慮の上選択されるのが良いと思われます。

1. 聴力の度合いに合わせて選択する
2. 生活ニーズとご予算から選択する
3. 聞き比べてみる

補聴器はどのような人に必要ですか？

もし生活の中で聞こえにくいと感じることや、きこえについての悩みを持つことがあれば、いずれも補聴器を装用できます。きこえにお困りの方の訴えの多くは下記のようなものです。

『私は言葉が聞こえません。』『音は聞こえますが、言葉がはっきりしません、言葉の意味がわかりません。』『電話や携帯電話が良く聞こえませんが、』『騒音が多い環境で人の声が聞こえにくいです。』等

これらの聞こえにくい音をはっきりと聞きとれるようにし、聴覚の問題を改善するためには補聴器を使用する必要があります。普段の会話や仕事におけるコミュニケーションを維持するために、補聴器店や補聴器専門医を訪れ、補聴器を試聴して問題を改善しましょう。

補聴器のオプション装置や補聴器以外の選択肢はありますか？

補聴器の主な目的は短距離（およそ3メートル以内）での会話やコミュニケーションでの聞こえやすさを改善する事です。非常に大きな会場での講演会や会議、授業では、周囲の騒音が大きく影響し聞こえにくいことがあります。そのためにFMシステムを補聴器と組み合わせて使う事で、このような場面での聞こえやすさを改善します。このFMシステムはラジオのFMの電波と同様の周波数を使用し、遠くの話者にマイクをつけ、FM電波で音声を補聴器に飛ばし、雑音の少ない声を聞く事が可能になります。その他に90dBHL以上の難聴がある幼児では補聴器を使用しての言語習得は難しいため、人工内耳手術という選択肢もあります。